

国立大学法人群馬大学入札監視委員会定例会議議事概要

開催日及び場所		令和7年12月15日(月) 国立大学法人群馬大学 事務局棟5階特別会議室		
委員	委員長	北野 敦則	(前橋工科大学教授)	
	委員	小磯 正康	(弁護士)	
	委員	萩原 裕司	(公認会計士、税理士)	
審議対象期間		令和6年4月1日～令和7年3月31日		
抽出案件(合計)		5件	(備考) 今回の審議対象期間においては、再苦情の申立ての審議は無し。 個別審議については、事務局から説明を行い、質問に対して回答した。	
工事(小計)		4件		
	一般競争入札(政府調達に関する協定対象工事)	0件		
	一般競争入札(上記工事を除く)	4件		
	工事希望型競争入札	0件		
	通常指名競争入札	0件		
	随意契約	0件		
	設計・コンサルティング業務(小計)	1件		
	公募型プロポーザル方式	0件		
	簡易公募型プロポーザル方式	0件		
	簡易公募型プロポーザル方式(拡大)	0件		
	標準型プロポーザル方式	0件		
	一般競争入札	1件		
	随意契約	0件		
委員からの意見・質問、それに対する回答等		意見・質問		回答
		別紙のとおり		別紙のとおり
委員会による意見の具申又は勧告の内容		特になし		

意 見・質 問	回 答
<p>1. 群馬大学において発注した建設工事について</p> <p>(事務局より説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>2. 群馬大学において発注した設計・コンサルティング業務について</p> <p>(事務局より説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>3. 個別審議案件について</p> <p>【群馬大学（桐生）6号館改修電気設備工事【再度公告】】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予定価格はどのように決めているのか。 ・1者応札になった理由は何か。 ・見積合せはどのようにしているのか。 ・競争入札として1者応札は健全な競争といえるのか。 ・技術者が不足している理由は何か。 ・地域性ということであるが、桐生で請け負える業者は何社かあるのか。 <p>【群馬大学（荒牧）3号館等照明設備改修工事】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・予定価格の積算は文部科学省の公共建築工事積算基準に基づいて行っている。 ・国土交通省が公共工事に適用する統一基準である。 ・これは技術者不足が原因と考えられる。 ・入札者が、どこまで金額を下げられるか判断して、見積合せを行っており、結果として5回見積合せを行った。 ・公告にて情報提供してもなかなか参加できる業者がなく、なんとか1者が入札した状況である。 ・工事場所が桐生であり前橋、高崎から遠いため、地域性が考えられる。 ・一番大きな影響は少子高齢化で若手がいらないためである。発注者は業者を取り合っている状況である。 ・何社かある。リストアップして調査している。

<ul style="list-style-type: none"> ・落札者との取引は過去にあるか。 ・予定価格よりも入札額がかなり低いが、どうい う点で金額が落とせたのか。 ・人件費や労務費が削減されていることはないの か。 ・受注者は東京の業者であり、移動費や宿泊等負 担が大きいと思われるが、全員、東京から群馬へ 来ているのか。 <p>【群馬大学（医病）基幹・環境整備（感染系排水 処理設備）工事【再度公告】】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初の公告では技術者不足、再度公告では資格 要件を１級から２級に変更して条件を緩和してい るが、それでも１者しか入札しないのか。 <p>【群馬大学（桐生）北中学校跡地リモート運転車 両走行路整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事内容からみて難しい工事ではないと思われ るが、それでも１者しか入札しないのか。 ・時期をずらすことはできなかったのか。 ・低入札できた理由は何か。 <p>【群馬大学（荒牧）ライフライン再生（排水設備） 実施設計業務】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和地区の方の設計業務も同じ業者が落札して いるが、こちらの案件にも数社入札したのか。ま 	<ul style="list-style-type: none"> ・初めてである。 ・資材調達会社へ年間を通じて発注していることによる 低価格での調達、在庫資材のリアルタイム確認、長年の 取引がある関連会社からの協力などである。 ・資材が削減されている。本学以外との取引実績も多い 業者なので、低価格での資材購入が可能であると考えら れる。 ・そのとおりである。 ・そうである。施工業者数が少ない特殊な設備のためで ある。 ・入札が１月で完成期限が年度末であったため、ほかの 工事を請け負っている業者が多い時期であるので、入札 するのが時期的に難しかったと思われる。競争参加資格 の等級を２等級上位まで広げるなど条件を緩和しても、 結果として、１者のみであった。 ・理工学部で行っている共同研究であり、その予算の関 係でずらすことができなかった。 ・落札者は、理工学部の工事をいくつか請け負っている 業者であり、事業所が理工学部の近くにあることが低入 札できた理由の一つと考えられる。 ・３社入札している。また、同じ業者が落札したのは、 あくまでも入札手続きを行った結果である。
--	--

<p>た、同じ業者が落札した理由は何か。</p> <p>4. 取引停止等の措置状況について</p> <p>(事務局より説明)</p> <ul style="list-style-type: none">・特になし <p>5. 再苦情の申立状況について</p> <p>(事務局より説明)</p> <ul style="list-style-type: none">・特になし <p>【講評】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 1 者応札の案件が多く、建設業の技術者が不足している現状ではあるが、入札業者を増やす努力をお願いしたい。また、入札が 1 月、完成期限が年度末の案件が 1 者応札になっており、入札を行う時期について工夫してほしい。・ 低入札価格調査では、人件費や労務費が削減されていないか引き続きチェックをお願いしたい。・ 入札手続自体は適正に行われている。	
---	--